

水木さんとは、30年ほど前、雑誌の企画で対談してから、親しくおつきあいしていただいていた。最後にお会いしたのは、一昨年の夏、大阪の天保山で開催された「水木しげるの妖怪樂園」のオープニング・セレモニーのときであった。そのときはとても元気で、百歳まで生きるのだとおっしゃっておられたし、その後の様子を関係者からも折々にうかがっていたが、やはりお元気だということだったので、訃報に接したとき、信じられない思いであった。

今、日本の妖怪文化は、国内はもちろん、世界から

文化人類学者

小松 和彦

水木しげるさんを悼む

も熱い注目を集め始めてい

木さんの妖怪を通じて、日本の豊かな妖怪の世界へと導かれたのである。

水木さんといえば、まず想起するのは『ゲゲゲの鬼太郎』である。妖怪たちを

現代の妖怪文化の先導者

主人公にしたこのマンガでは、たくさんの種類の妖怪

感じずにはいられないはずである。

現代妖怪文化のシンボルともいべき水木さんを失ったことは、とても悲しく

たちらの多くは、民俗社会で伝えられていた妖怪や江戸の浮世絵師たちが描いた妖怪に素材を求めながら、水木さんふうの妖怪として描かれ、あるいは描き直されたものであった。その意味では、水木さんは知らず知

印象に残っているのは、水木さんとお話をするとき、しばしば自分自身を「私」ではなく、「水木さん」と他人事のように話すことであった。意識的に使

私たちがいつそつて発掘し、私たちに示された豊かな日本の妖怪文化を、せ、世界に発信することが、きつとあの世に旅だった水木さんへの一番のはなむけとなるのではなからうか。



鬼太郎のオブジェと水木しげるさん（2003年）